

ゼロ 原発0の日本を!!

なくせ! 原発大集会 inふくしま

当生協から組合員・職員51名が参加!

福島市内の「四季の里」で開かれた10.30大集会に、群馬中央医療生協から大型バス1台・51名で参加しました。開会前に会場入りしましたが、会場内はすでに当初目標を大幅に上回る1万人を超える参加者で埋め尽くされ、指定された場所に移動するのめんどろでした。

福島市内の「四季の里」で開かれた10.30大集会に、群馬中央医療生協から大型バス1台・51名で参加しました。開会前に会場入りしましたが、会場内はすでに当初目標を大幅に上回る1万人を超える参加者で埋め尽くされ、指定された場所に移動するのめんどろでした。

福島市内の「四季の里」で開かれた10.30大集会に、群馬中央医療生協から大型バス1台・51名で参加しました。開会前に会場入りしましたが、会場内はすでに当初目標を大幅に上回る1万人を超える参加者で埋め尽くされ、指定された場所に移動するのめんどろでした。



集会に参加して

「私たちに今、何ができるか考えていくことが大切」

前橋協立診療所 佐藤直美



前橋協立病院から出発して太田協立診療所を経由して、福島県の会場四季の里へとバスで向かいました。途中、バスは渋滞に少し巻き込まれ予定時間より遅れ四季の里に到着しました。到着すると、まずその人の数の多さに圧倒され、47都道府県1万を超える人々が集まっていると知り、やはり多くの人々が、原発に大きな関心を寄せているのだと実感を持つことができました。ステージ上では、発表者が「私たちの今の現状を、帰ってから皆さんに伝えてほしい」また、秋田に避難して行った友達を想い、幼い子供が「○○ちゃんに逢いたい」「プールに入れるようになりたい」などマイクを通して力いっぱい発言に胸に迫る思いにかられました。そして、原発により当たり前の生活を奪われて、毎日不安と日々判断に迷い暮している事を、生の声から知ることができました。親が幼い我が子に、癌保険をかけなくてはならない現実が今の福島にはあるということ、被害者なのに煩雑な東京電力からの申請に対応しなければならぬこと、除染区域

に対する国の低い予算などなど許されなないことが、あまりにも多くあることも知りました。また、帰りの車中で、当日の放射線の線量が報告され、太田協立診療所0.05マイクログシーベルトで、集会所となった四季の里の芝の上0.65マイクログシーベルトと10倍以上の値に、見えない怖さが込み上げてきました。そこに住むしかない人達は、日々どれほどのストレスを抱えて生活しているのだろうと実感しました。「二度、外に放出されてしまった放射能は回収することができません。だからこそ安全なエネルギーへの転換を」と車中で発言ができましたが、そこに向かつていけるように、私たちが今出来ることは何だろうと考えていく事が大切なことだと感じました。